

日本史研究者からのコメント

村和明

- ・この問題を特に追求し活動してきたわけではないので、普段視界に入る範囲で述べる。
- ・韓国で起こっている現象とその問題点は、全体的には日本とよく似ている印象である。
- ・以下、日本で起こっている（韓国と異なるかもしれない）問題を数点と、議論したいポイントを数点述べる。
- ・日本で起こっていること
 - ・問題意識をもつ研究者は広く存在し、日常の話題にもよく上るが、集団的な議論や活動は限定的な印象（地域の史料の調査・研究における共働は数十年試みられている）。
 - ・「歴史学」、「歴史学の専門家集団」に、国家・社会に求められるような「歴史」（サブカルチャーも含む）を加えて考えると、日本では、「歴史学」は大学の専門家集団が主に担い、高校教員やアマチュアの郷土史家なども加わっていたが、後者は激減しており、前者の孤立化が著しい。「歴史」については、歴史学・専門家集団が独占していた時期は、日本では無い。
 - ・「歴史」についてのインフルエンサーは、他分野の専門研究者（自称を含む）・ジャーナリストが多い。歴史学の専門家出身者はごく少なく、他の専門家からの視線は厳しい傾向にある。この2世紀では、物語的な歴史を書く作家（頼山陽・吉川英治・司馬遼太郎など）の影響力が非常に大きかったが、近年は少ない。
 - ・人気のある「歴史」コンテンツの特徴は、「愛国的」（政治的な善悪二元論）である他に、英雄主義的、立志伝的（成功の秘訣を語る）、感傷的・情緒的、トリビア的・小噺（オチのある短いエピソード）的、などの特徴がみられる。これらは庶民の娯楽（演劇・小説・映画・テレビドラマなど）の数世紀に及ぶ伝統に連なり、その一部が近年「疑似科学」的な外形を装い始め、専門家との棲み分けが曖昧になりつつある。
 - ・成長しているコンテンツは、web上の短いもの、定年退職者を対象とするものが主。長時間労働・低賃金、疲労・不安・不満が背景にありそう。
 - ・文学部だけでなく、教育学部・経済学部・法学部・農学部など、多彩な学部が専門家集団の一部（就職先、研究者養成）であったが、この面での衰退が急速・深刻である。
 - ・情報のデジタル化は進んでいるが、歴史関係の史料や研究書は大きく遅れている。
 - ・薄く読みやすい「新書」「選書」を専門家が書き、広く読まれる文化は数十年の伝統があり、近年また活性化していて、現実的な希望となっている。
- ・議論したいポイント、こだわりたいポイント
 - ・歴史学だけの問題ではない面と、その中で歴史学に顕著な面を、それぞれ考えたい。
 - ・（歴史学を越えて）知識の体系が激変し、学問・専門家の権威が世界的に動揺している。研究以外の目的を持つ「疑似科学」が広まっている。日本では、国家の

- 権威を背景とした大学の権威、あるいは大学・大出版社などの権威を背景とした「知識人」の権威が半ば崩壊し、一部では敵視もされつつある(反エリート主義)。
- ・(歴史学では)感情に訴え、世界の理解を助け、誰でも語りうるため、学問的でない言説も広く存在するが、専門家以外には区別しづらい(判断する基準は内容より形式か)。政治的・経済的な活動で利用価値が高く、その影響を受けやすい。
 - ・これらの問題をなるべく歴史学の方法で考えたい。「専門的な研究とは別の活動」ではないと捉え、この問題を考えることで歴史学自体を発展・深化させることも目指したい。
 - ・(例えば、理論・方法として)歴史学が、紙に印刷された論文・書物、閉鎖的な口頭の議論で進められていること、啓蒙・普及的な発信について保守的であることへの自覚と、それが歴史学にもたらしている長所・短所の分析。今後の方向性の模索(共同体の生き残りに限らず)。
 - ・(例えば、研究対象として)個人が情報を集めて世界を認識する仕組み、ある言説が権威を帯び影響力をもつ仕組み、専門家集団・専門的知識と国家・社会の関係、社会の分断・統合のあり方、などをめぐる研究の深化。視点の刷新。
 - ・歴史学、その専門家集団が変わるべき面を考えることで、変わってはいけない面をも意識したい。生き残り(知識・技術・倫理・歴史資料)と学問的な矜持のバランスをどう取るか。一見地味な事実の解明・蓄積にこだわること、事実・根拠をもとに議論すること、情報の信憑性を慎重に測ること、結論・評価を急がないこと、根拠となる情報の保存に務めること、などの価値は大切にしたい。そうした価値観をもつ人間の拠り所として、いかに学問・共同体を存続させるか。
 - ・変わり方の模索は、社会が今後どのように変化していくか、という見通しと不可分であろう。現代は情報の量が爆発的に増え、情報をめぐる秩序・体制が確立してゆく過程だと思うが、それがどのようなものとなるか、見えない。プラットフォーム企業の動向、人工知能の発達・普及、国家が民意を調達する方法の変化、などが非常に重要だと思うが…。

以上